特集 カーボンニュートラル目標設定と実現に向けた取組み

サスティナブルな社会の発展を目指して

サスティナビリティ方針

未来の子供たちに幸せが届くよう、 新しい価値創造に挑戦します



オール東亞サスティナビリティ体系

持続可能な社会発展への取組み	重点分野	マテリアリティ	関連SDGs
	モビリティ	● 自動車にかかる環境負荷物質の低減	7 SANT-MAKE
事業を通じた社会的価値の提供 (OSR)	エレクトロニクス	● 産業イノベーション・情報インフラ整備	9 :::::::
	ヘルスケア	● 健康で快適な生活環境づくり● 高齢者、要介護者の豊かな生活づくり	3 *******
	ライフライン	● 上下水処理を通じた良質な水の安定供給● 自然災害による被害の防止、軽減	6 reserved III sections All the sections of the section of the se
	生物多様性	無洋の生物多様性維持	14 stars
	エネルギー	● CO₂排出量削減による気候変動抑制	13 MM::
	新たな価値創造	● 新ビジネスユニット創出、DXによる新価値提供	9 :::::::
	統治	● ステークホルダーを重視したガバナンスの強化	3 miles: 5 miles: 8 miles: 1
永続的な企業基盤の強化 (DSR)	環境	● RC(レスポンシブル・ケア)活動の充実	11 HARDER 12 TOUR 13 MARTIN
	社会	● 人権および多様性の尊重● 社会貢献にかかわる活動の推進	14 Marie 15 Marie 16 Marie 16 Marie 17

SDGsへの取組み

重点分野ごとの具体的な取組みは下記のとおりです。各事業部の取組みはP32以降をご覧ください。

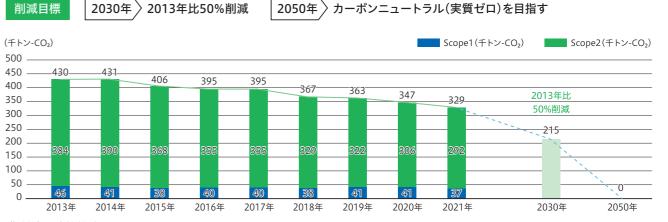
モビリティ	車載用高機能電池材料(P25:新製品開発事業部CASE2)、ガラス代替樹脂(P27:研究開発成果①)など		
エレクトロニクス	半導体製造用高純度無機薬品(高機能材料事業)、情報通信用途向け接着剤(接着材料事業)など		
ヘルスケア	医療用瞬間接着剤(接着材料事業)、パップ剤用樹脂・化粧品材料(ポリマー・オリゴマー事業)、		
	無機系抗菌剤・消臭剤・防カビ剤(高機能材料事業)、介護用品(樹脂加工製品事業)、		
	次亜塩素酸水溶液(基幹化学品事業)など		
ライフライン	水除菌剤(基幹化学品事業)、排水処理剤・液状化対策用地盤固化材(ポリマー・オリゴマー事業)、		
	下水道管用管材(樹脂加工製品事業)など		
生物多様性	バラスト水処理システム(基幹化学品事業)		
エネルギー	カーボンニュートラル目標の設定 (P19~P21)		
新たな価値創造	「特集:新製品開発事業部」(P24)および研究開発の取組み(P26)をご覧ください。		
統治・環境・社会	P42以降および当社ホームページをご覧ください。		

2050年 カーボンニュートラル目標の設定

当社グループはサスティナビリティ方針のもと、将来世代にわたる豊かな社会の持続発展を目指し、環境対応を重視した事業活動に取り組んでいます。気候変動抑制を環境対応の重点課題に取り上げ、温室効果ガス(Greenhouse Gas、以下GHG)の排出量削減を進めており、これまでの実績として、2021年には基準年である2013年比で約23%の削減となっています。世界的に気候変動リスクが高まる中、当社は「2050年にカーボンニュートラル(実施ゼロ)」を目指し、GHG排出量削減を加速します。

GHG排出量推移と削減目標(Scope1+Scope2)

当社グループの生産活動に伴い発生するGHG排出量を対象に、2030年、2050年の削減目標を設定しました。



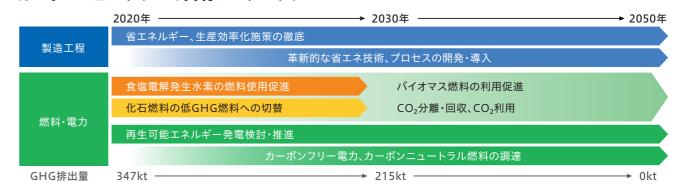
※集計対象:国内製造拠点

カーボンニュートラルの実現に向けた取組み

当社グループはカーボンニュートラルの実現に向け、これまで進めてきた製造工程の省エネルギーや効率化だけでなく、GHG排出削減の抜本的な取組みを加速しています。再生可能エネルギー発電の自社保有を目指し、様々な施策について具体的な調査・検討を開始しています。

- 工場の省エネルギー強化(食塩電解工場を高性能設備へ更新、プロセス改善)、ボイラー燃料の低 GHG 化
- 再生可能エネルギーの導入(バイオマス発電、太陽光発電、小水力発電)
- 地域との連携(横浜市ごみ焼却場からのカーボンニュートラル蒸気導入)
- 水素社会へ向けた貢献(自社製造水素の有効活用)
- 気候変動対策に資する製品として蓄電池関連や新素材等の開発

カーボンニュートラルの実現ロードマップ



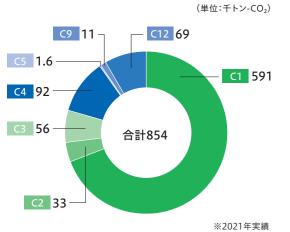
18 東亞合成グループレポート 2022

TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)への取組み

当社グループは各種化学製品を製造する過程で多量の電力、燃料を使用し、温室効果ガス(GHG)を排出しています。 一方でモビリティ、エレクトロニクス、ライフラインなどの領域で気候変動に貢献する製品も数多く提供しています。 GHG排出量の削減と製品での貢献の両面において、気候変動対応は経営の重要な側面であり、当社は 2019年6月に「気候 関連財務情報開示タスクフォース」(以下TCFD)に賛同しました。

TCFDガイダンスに沿ってサプライチェーンを含めた3つの区分(Scope1-3)でのGHG排出量を算定し、把握しました。

Scope3 排出量内訳



Scope3 カテゴリー

上 流	自 社	下 流
Scope3	Scope1 —	Scope3 —
C1:購入した製品・サービス 591千トン・CO₂	37千トン-CO ₂ 燃料使用に伴う排出	C9:輸送・配送(下流) 11千トン-CO₂
C2:資本財 33千トン-CO ₂	MATICALITY OF THE	C10 :販売した製品の加工 非該当
C3 :Scope1,2以外の	Scope2	C11:販売した製品の使用
エネルギー	280千トン-CO₂	非該当
56千トン-CO ₂	購入した電気・熱の	C12:販売した製品の廃棄
C4:輸送・配送(上流) 92千トン-CO。	使用に伴う排出	69千トン-CO₂
C5:事業から出る廃棄物 1.6千トン-CO ₂	Scope3 C6:出張	C13:リース資産(下流) 0.1千トン-CO ₂ 未満
C8:リース資産(上流)	0.1千トン-CO ₂	C14:フランチャイズ 非該当
非該当	C7:通勤	C15:投資
	0.4千トン-CO₂	非該当

※集計対象 Scope1·2:国内製造拠点、Scope3:東亞合成単体

気候関連リスク・機会(シナリオ分析)

気候変動が当社グループの事業に及ぼすリスクと機会について、「2℃未満シナリオ | および [4℃シナリオ | を用いて分 析しました。「2℃未満シナリオ」は、脱炭素社会に向けて社会の規制・技術・市場・評判が変化するケースであり、「4℃シナ リオーは脱炭素が進まず慢性的・急性的な気象変化が顕在化するケースです。それぞれについて想定される事業インパク トおよび当社グループが取るべき対応を考えています。

リスク・機会項目		スク・機会項目	事業インパクト	対 応
	政策 規制	エネルギー関連法規制の 強化	リスク 炭素税導入などによる製造・原材料のコストアップ	●低炭素燃料への燃料転換●再生可能エネルギーの導入、グリーン電力/燃料への切替
2℃未満 カナリオ 市	技術	エネルギー・DX技術の進化	リスク 低炭素化技術開発・設備導入による製造 コストアップ	●低エネルギー代替製造プロセスの開発
	市場	水素エネルギー社会への移行	機 会 水素のエネルギー需要拡大、水素の価値向上	●自製水素の有効活用、水素関連事業拡大
		ZEV、蓄電池市場の拡大	機会 EV・FCV関連製品、再エネ蓄電池の需要拡大	■ZEV、蓄電池関連製品・素材の開発・拡販
	評判	ステークホルダーの行動変 化	機会 気候変動対策にかかわる企業価値評価の 浸透	●気候変動対策推進と適切な情報発信の継続●ステークホルダーとの対話の充実
物理的リスク 4℃ シナリオ	慢性	平均気温の上昇、気象の変化	リスク 気温上昇による労働環境悪化、生産性の低下	生産設備の自動化、省人化
	急性	台風水害の頻発、激甚化	リスク 工場操業停止、設備被害、物流分断リスク の拡大	●生産拠点の複数化、複数購買徹底●自社物流機能強化●定期的なリスクの見直しとBCPの進化

事例紹介

水素エネルギー活用の取組み

当社徳島工場では、隣接地に水素ステーション「東亞合成水素ステーション徳島 | を開業しました。2021年11月から 試験オープンし、2022年4月に開所式を行って正式に営業を開始しました。

「東亞合成水素ステーション徳島」は、購入水素を燃料電池自動車(FCV)へ充填する他の水素ステーションとは異なり、 当社の食塩電解設備で生産する水素を精製し、直結したステーションに送る点で、他にはない設備です。今後も水素社会 に向けて貢献していきます。





東亞合成水素ステーション徳島

夜のライトアップ時



高圧水素ガスディスペンサー



開所式(左:飯泉嘉門徳島県知事、右:当社髙村美己志社長)

太陽光発電の設置

当社高岡工場に建設した「高岡創造ラボ | では、施設 屋上に太陽光発電設備を設置し、施設の電力を太陽光で 賄っています。

また、当社名古屋工場に建設する新たな物流センター 倉庫(2024年秋完成予定)にも太陽光発電設備を導入す るよう進めています。



屋上の太陽光発電システム(高岡創造ラボ)

21 20 東亞合成グループレポート 2022